

社会福祉法人 暁光会

設立五十周年を迎えて

向井 宏

法人五十周年を迎えて、法人の歴史と言いますか、あかつきの歴史を私が母親から聞いていた事と、幼少の頃の記憶を頼りに少し記させていただきます。

私の両親と法人の設立者でありますロベル・バラード神父との出会いは、ゼノ神父と北原怜子さんが居られた東京の蟻の町に始まります。

バラード神父と蟻の町で共にバタヤ（廃品回収をする人）をし、自分達より「より困っている人たち（エマウスの精神）」の為に働き、バラード神父が関西（神戸）に帰る際に、両親に神戸へ来て欲しいと頼まれ、エマウスの精神と神父の考えに賛同し、関西へ来る事になったようです。

その当時、母親は身重な身体で神戸行き汽車に八時間ほど揺られて来たようです。最初は、兵庫県の尼崎に住居があり、生活環境は劣悪だったように聞いておりま

す。ある日、母親は身重な身体で家事仕事をしていた所へ大声がし、包丁を持った人が家の中を横断して行ったようです。その後、母は昼間でも外へ出るのが怖くなったと話していました。

昭和三十四年三月、神戸回生病院で無事、私が生まれ、その年の十月頃、現在のあかつき特別養護老人ホームのある箕面での生活が始まりました。



箕面での生活は山の中の一軒家です。現在の老人ホームの円形テラスの所に、藁葺き屋根ではないですが、古い日本家屋がポツンとあっただけで後は雑木林だったようです。

バラード神父を含め父親と何人かの方々とその雑木林の開墾が始まりました。



今のようにブルドーザーのような重機が少ない時代でしたので、全て人の手で行ったとの事です。木を切り、土を掘り起こし、木の根を取り除き、石が出てくれば後に石垣に使い、それはそれは今の時代から考えれば気の遠くなるような作業だったように聞いています。

朝から晩まで土木作業に明け暮れ、母は洗濯をする暇もなかったもので、夜に洗濯するのですが、当時は水道も

引かれていなかった
ので、小高い山を越えて井戸のある所まで行き、月明かりで洗濯した事もあったようです。（現在のデイ・サービスの地下倉庫のあたりに井戸があった）

何年かの歳月が経ち、廃品回収が出来るまでの基盤整備が出来、雨露を凌げる様な小

屋も建て、開墾と平行しながら養豚の事業も始めたようでした。ある人は廃品回収業に、ある人は養豚業に、ある人は果樹園作りにと、着々とこの広大な土地（約六〇〇〇坪）も整備されて行きました。

少し言い忘れていましたが、現在も、ここへ登ってくる道は狭く、車の離合も儘ならないですが、ここへ来た当初は単なる山道で、本来の道の幅員は1メートル足らずです。現在も道の両隣の方々のご配慮により使用させて頂いています。道幅があるのは、最初は軽自動車（ダイハツの軽三輪自動車）で少しづつ削り広げ、次は三輪トラックで削り広げをしているうちに、現在の幅員になっていたのです。

話を元に戻します。養豚は、現在の祈りの家のあたりから本館食堂方向へ南北に豚舎がありました。（私の記憶では五十頭位は居たように思う）当時は、豚の餌も今のように配合餌も無かったのでしょうか。

私は、父親と三輪トラックに乗って伊丹の武田薬品だっと思ったと思いますが、豚の餌になる廃棄物を引取りに行っていた事を覚えています。武田薬品以外にも何か所かあったように思います。

養豚に関しては、その後、豚舎が火事になった事もあったのと、池に豚のし尿が流れ込んでいた為、田畑に水が引けないとの苦情が村の水利組合より再三有り、長い期間養豚の事業をしていた様には記憶していません。廃品回収も同じく短期間だったように思います。



果樹園の方は、順調でみかんの木を植える為、山の斜面を段々畑にし、みかんの木を約三百本程植えました。

その他、南側の山の斜面にも（現在のひかりの家のある方角）段々畑を作り桃、栗、柿、それに枇杷、李等の果樹を植えました。

その頃には、養豚をしていた人も、廃品回収をしていた人も、神

戸（本部）や大阪（支部）へ行かれ、果樹の世話は、殆

ど父親一人でしていた様に思います。朝から晩までみかんやその他の木々の周りの草刈りや消毒、剪定、肥料やりと忙しくしておりましたので、私は、学校が休みになると必然的に手伝わされる事になりました。

年々、木々も大きく育ち、収穫も出来るほどになって行きました。中でも桃、枇杷、李の実が出来始めると、袋掛けをするのに、古新聞で袋作りをし、一つ一つ袋を掛けて行くのは手間のかかる作業でした。幾ら手伝わても収穫された綺麗な物は、私達の口に入る事はありませんでしたが、弟と時々父親の目を盗み、果樹園に行って盗み食した事も今ではいい思い出です。

みかんは十一月頃から収穫し、十二月には、神戸の三宮の地下でバザーに出す為、選別して綺麗に拭、箱に詰め、父親と車で何回も往復した記憶があります。

果樹園等と平行して、昭和四十一年には北原病院が建てられました。病院と云っても急性期の患者さんを治療する所ではなく、今の特別養護老人ホームの前身のようなもので、老人専門の昔で言う養老院だったように思います。北原病院は、ヌベール愛徳修道会のシスター（修道女）方が、バラード神父から依頼され運営をされてお

られました。

その後、昭和四十四年、現在のあかつき特別養護老人ホーム（本館）の建設が始まりました。建設は、この山の中ですから、前にも記述していますように、道が狭いので建設資材を運ぶにも二トトラックが何とか上がってこれる程度なので、これも大変だったようです。

今から考えるとこの山の中に、このような立派な建物が建ったのも不思議に思います。当時、この建物は、建築関係のデザインの本にも載ったようです。

ここで少し、建設中の基礎工事の時の出来事を記さして頂きます。私は小学五年生で冬の雨の降るある日、夕方遅くに帰宅して来ました。山の中なので辺りは真っ暗でした。

昼間に基礎の工事で大きな穴が掘ってあるのは知っていましたが、雨がかなり激しく降っていたので、体が濡れないように傘に気を取られていましたところ、その大きく深く掘られた穴へ足を滑らし落ちてしまったのです。

穴は私の背丈よりはるかに深く、私は助けを呼ぶのに必死に大声を出しましたが、大雨の為、家は近くでしたが聞こえる筈も無かったのです。

帰りの遅い私を父親が探しに来てくれるまでの一時間程、穴の中で泥だらけになり、もがいていた事を今でも忘れません。

大阪万博の開催された年、昭和四十五年六月一日、あかつき特別養護老人ホームが開設されました。

その頃はまだ北原病院の建物も有り、老人ホームと長い緩やかな渡り廊下で繋がっていました。当時、北原病院におられる方は、殆どが寝たきり状態の方で、入浴時は老人ホームの方へ来なくてははいけませんでした。

学生だった私も、学校が休みで老人ホームの入浴日だった時は、移動の手伝いに借り出されたものでした。

その他、レントゲンの手伝いもしました。殆ど寝たきりの方ばかりなので、レントゲンの機械の前に来て頂くのではなく、こちらが機械を持ってその方の所へ行くのです。レントゲンの機械は、技師さんが操作するのですが、私の役目は、利用者さんが動かないように介助することです。首から足のくるぶしまである鉛の入った重たいエプロンを着け、手伝った事もありました。

又、老人ホームで出る食事の残飯は果樹園の肥料にするため、再利用するのですが毎朝、果樹園の近くに作っ

た残飯溜めの所（醗酵させる）まで運ぶのも私の仕事でした。

残飯の肥料のおかげかどうか判りませんが、中でも果

樹園のみかんは、毎年美しい果実が取れるようになり、多くの方々より箕面のみかんは美味しいと言われるまでになり、その方々より「今年は何箱送って下さい」との声が掛かるほどにまでなっていきました。

老人ホームも順調にスタートし入所者も増え、果樹園も上手く行っていました。老人ホーム開設の三年後、私が中学三年の初夏、父は他界致しました。長年の重労働とみかんの消毒が身体に悪かったのか、肝臓がんを患い告知を受けてから僅か三カ月の命でした。

父親が亡くなった後、何人かの方々果樹園の仕事に就かれましたが、一人でするには重労働なのと広範囲だ

ったので長続きはされませんでした。

その後のみかんの収穫は出来ましたが、年々収穫できる数も減って行ったのと味も美味しくなくなり、今では八朔のみかんが辛うじて取れるだけになっています。

昭和五十年、老人ホームは五十床から七十床へと増床しました。

昭和六十一年には、北原病院の建物を取り壊し、現在の別館（一階がデイ・サービス・センター）が建てられ、昭和六十二年三月に箕面市から委託を受け、老人デイ・サービス、老人ショート・ステイが開始されました。

平成三年には在宅サービス供給ステーションが開設、介護支援センター、訪問介護事業が次々と展開されるようになり、

平成十二年には介護保険制度が導入され、現在に至っております。

ここまで幼少の頃の事を思い出しながら、つらつらと書いて来ましたが、法人の事なのか、私の生い立ちの事なのかと混同してしまうような文章ですがお許しください



い。

まだまだ思い返すといろんな事がありました。ここらで筆をおきたいと思います。

最後になりましたが、父と母が蟻の町でバラード神父に会って居なければ関西へ、いやこの法人の事すら知らなかったでしょう。設立当初から、父や母が関わり、多くの人と出会い、そして別れ、苦楽を共にしていた事を見て育ってきた事は、私は自分の宝物のように思っています。

今は亡き父や母、そしてバラード神父・シスター方・病で倒れて病床に着いておられる詫摩さん、その他多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。

社会福祉法人 曙光会 設立五十周年

おめでとうございます。